

情勢報告

集落営農リーダー研修会を開催



リーダー同士の話し合い

2月13日、管内の集落営農組織の代表を対象に「集落営農リーダー研修会」を開催し、4組織から6名が参加した。

講演として、（農）ビレッジ影野の代表濱田氏に、リーダーとしての活動や苦労した点などを話していただいた。その後参加者全員で現在の課題や目標を話し合い、濱田氏からのアドバイスや、他組織の状況など、活発な意見交換ができた。

振興センターでは、今後も集落営農の新組織の設立に向けた取り組みを進めるとともに、既存集落営農組織の発展を支援する。

神戸ハーバーランドで消費者に管内の環境保全型農業の取り組みを PR！



「天敵昆虫を使って害虫を退治してるんですよ」

高知県、園芸連、JA グループ高知が共催する園芸品販促イベント「高知野菜の夜明けぜよ in 神戸ハーバーランド」（開催期間：2月14～16日、来場者12,300人）が神戸市で開催された。振興センターは15、16日の2日間、ナス生産者らとともに会場内に設営された簡易ビニルハウスに訪れた約2,200人にタバコカスミカメなどの天敵昆虫を活用した施設栽培における環境保全型農業の取り組みを紹介した。

来場者からは、実際に鉢植えで持ち込まれたスイカ、ナス、ピーマンなどの様子や天敵昆虫の実物に感嘆の声が聞かれた。

今後、振興センターは消費拡大イベント等を活用して一般消費者にも環境保全型農業をアピールする。

広域連携で鳥獣被害対策を考える！ ～安芸地域鳥獣被害対策勉強会を開催～



JAと市町村担当の連携体制ができた

2月20日、管内市町村担当者8名とJA鳥獣対策専門員2名、鳥獣対策課、振興センターが「鳥獣被害対策勉強会」を開催した。

野生鳥獣に強い集落づくり事業の取り組み状況や各市町村の被害実態の報告があり、その後の情報交換会ではJAの鳥獣対策専門員と市町村とが連携して被害実態を把握することになった。

今後、振興センターは安芸地域全体でこのような勉強会や一般向け講習会、食肉としての利活用など市町村や地域の連携が出来るよう支援する。

最先端技術に驚き！ 県内“環境制御先進地”視察研修会の開催



均一に管理されたトマトの前にて

振興センターが「土佐あき新施設園芸システム勉強会」に呼び掛けて、2月22日に「(有) 四万十みはら菜園」の視察研修を開催し、生産者6名と関係者7名が参加した。

振興センターからは「今の樹の状態判断と理想の状態への操作管理」などについて質問し、参加した生産者に「生育調査結果を基に植物を操作する」ことへの関心を高めてもらえた。生産者からは、「ベジベジ(栄養成長過多)」「ジェネジェネ(生殖成長過多)」などと植物バランス用語を使い熱心に質問や意見が交わされた。

今後、振興センターでは、4月の同勉強会の定例会で今回の研修内容を報告し、情報共有する。

中芸地区の食材を活かした自慢料理をPR～郷土料理講習会～



料理のポイントを教える

2月23日にRKC調理師学校にて中芸地区の郷土料理講習会が開催され、中芸地区農漁村女性グループ研究会が講師になり、参加者22人に5品の料理を紹介し、実習した。また、同研究会が2月に発行した、料理レシピや活動のPR冊子「中芸地区のお国自慢料理」を参加者に配布した。参加者からは「地元食材を簡単においしく料理できてよかった」「冊子をもらえて嬉しい」など好評だった。

振興センターは、開催までの段取りや準備の支援を行った。26年度は中芸地区で一般消費者へ料理のお披露目を予定しており、開催に向けて支援する。

土佐鷹の普及拡大を！～生産者大会が開催される～



目標面積40haを目指そう！

2月26日、土佐鷹生産者大会が関係者や生産者を合わせて85名の参加を得て開催された。大会では、東京事務所の和田プロマネから、消費地での土佐鷹への期待と安定供給など産地への要望が提案された。さらに、生産者代表からは、「土佐鷹と環境制御技術で若者が夢を持ってナスづくりに取り組める産地を目指そう」との提案があった。

振興センターは、炭酸ガス施用による土佐鷹の増収効果や競合産地の産地振興策などについて報告した。今後もJAと連携し、個別推進などによる面積拡大を目指す。

平成 25 年度第 2 回農業改良普及推進協議会の開催



パワーポイントで課題説明

2 月 28 日に田野町ふれあいセンターで協議会委員 18 名の出席を得て第 2 回普及推進協議会が開催された。会の前半では振興センターから 25 年度の総合 3 課題や個別課題の実績等について説明し、後半には委員と意見交換を行った。

各委員から「環境制御の補助があれば面積が広がる」「市としても環境制御を広げるため補助の用意はある」「ゆくゆくは集落営農組織の法人を目指し、収益があがる支援をお願いしたい」など、たくさんの意見が出た。

振興センターは、委員の意見を参考に 26 年度の普及活動に生かしていく。

中芸営農かわら版通算 130 号を発行



中芸地区農家の重要な情報源

振興センターでは中芸地区の農家を対象に J A の営農情報とともに「中芸営農かわら版」を毎月 1 回 640 部発行しており、今月で 130 号となった。その内容は地域の活動やイベントといった身近な話題から最新技術情報や農政課題まで幅広く、地域に密着した内容となっており、農家訪問の際にも作業室に張られていることもたびたびで、農家に親しみやすい「かわら版」となっている。

振興センターでは、今後さらに地域に密着したタイムリーな情報提供を行う。

来年度の米作りはこれで OK！～「^{あいな}愛 稲の会」馬路村集落営農水稻勉強会～



‘にこまる’に注目が集まる

3 月 7 日、馬路村相名地区集落営農組織は相名会館で来年度の米作りに向けた水稻勉強会を行い、7 名が参加した。

振興センターから 25 年度の気象から見た反省点、新奨励品種‘にこまる’の栽培方法を説明した。

農家からは「品種を替えてなんとかうまい米を作っちゃお」といった前向きな意見が出た。

今後、振興センターでは、5 月上旬、育苗中の圃場を回って現地検討会の開催を支援する。

なすの消費拡大に向けて～なすまつりを開催



出前授業の様子

安芸市施設園芸品消費拡大委員会は3月7日、仙台市で市場担当者、販売宣伝員（マネキン）ら約30名を対象に「なすまつり」を開催した。

なす料理講習会、安芸市の環境保全型農業について出前授業の内容で行い、振興センターは資料作成等を行い、開催を支援した。出席者からは「様々ななす料理を知れて勉強になった」、「エコシステム栽培の取り組みについてよくわかった」、「今後の営業販売につなげたい」などの声があがった。

振興センターは今後も、出前授業や消費宣伝など土佐あき農産物の消費拡大に向けた取り組みを支援する。

害虫防除を成功させよう！ ～JA土佐あき唐浜ピーマン部会～



なかなか実が多いですねえ

3月7日JA土佐あき唐浜集出荷場ピーマン部会は、目慣らし会、勉強会および現地検討会を開催し、生産者や関係者など11名が参加した。

振興センターは、栽培初期のアザミウマ対策について25年度はIPMを利用した実証試験を農家と取り組んできた。勉強会では防除マニュアルを示しながら技術の普及に努めた。25年度は栽培農家7戸中3戸が防除に成功し、秀品率が10%アップしたことから農家も成果を実感していた。

今後はさらなる防除技術を提案し、IPM防除マニュアルを充実させていく。

被害拡大を抑えましょう！～ナスフザリウム立枯病対策講習会を開催～



しっかり対策せんといかんね！

3月7日、JA土佐あき東支所にてナスフザリウム立枯病対策講習会を開催し、生産者・関係者あわせて48人が参加した。

農業技術センターからは、同病害に対する有効薬剤の検討結果や防除のポイントについて、振興センターからは、現在までの管内の発生状況や防除対策実証ほの試験結果を踏まえた対策について情報提供した。生産者からは農薬の効果や発生ほ場の特徴などに質問があり、活発な意見交換の場となった。

振興センターは、今後も同病害の発生状況や防除対策等を周知し、管内での対策を徹底する。

‘にこまる’で品質向上を目指す炭酸ガス施肥技術の普及～WCS品自別現地検討会～



炭酸ガス施肥の普及は近い？
‘にこまる’がえいが、WCSか？

3月10日に室戸岬町の南郷集落営農協議会に、近隣水稲栽培者県角の智友指導員、菅原指導員、農家ら約30名が施設ナスにおける炭酸ガス施肥のメリットとデメリット、5年度までの気象から見た反省点、新奨励品種‘にこまる’の振興策が魅力の炭酸ガス施肥による栽培管理や収量の変化について実証結果を報告した。各地域の先進農家が、環境測定は活用したい、米を事例報告が、等いろいろな意見が出た。

炭酸ガス施肥用への地域への関心と期待は高い、農家に説明会を開催、実証試験と情報収集を行い、技術の早期確立を目指す。

炭酸ガス施用技術に高まる期待～芸西ピーマン部会現地検討会より～



炭酸ガス施用機を前に現地検討会

3月12日に芸西ピーマン部会は現地検討会と勉強会を開催し、部員19人が参加した。

振興センターは炭酸ガス実証圃の進捗状況を説明し、2月末までの収量で炭酸ガス施用区が無施用区に比べ約36%の増収効果があったことを報告した。厳寒期に高収量を上げている別の生産者からは、「日中の炭酸ガス施用のおかげ」とのコメントがあった。部会では新たに炭酸ガス施用機を導入する農家もあり、「増収の切り札」として大きな期待を寄せている。

振興センターでは、炭酸ガス施用の経済性評価とマニュアルを作成し、施用技術の普及に努める。

東洋町でボンカンの剪定講習会を開催



ボンカン剪定講習風景

JA土佐あき果樹部甲浦支部では、3月13、14日に剪定講習会を開催し、13名の生産者が参加して剪定技術を学んだ。

講習会では、振興センターからボンカンの理想の樹形や剪定の基本について説明をしたあと、篤農家も加わって、実際に剪定作業を行った。参加者からは、樹高の切り下げ方法や、縮伐の方法など具体的な質問がたくさん出され、活発な講習会となった。

今後、現地検討会等で今回剪定した樹を生産者に見てもらい、剪定作業の重要性を示していく。

北川村ゆず地域座談会を開催



産地維持について意見を出しあう参加者

3月17日に北川村ゆず地域座談会が北部集会所で開催され、ゆず生産者10名が参加した（他2地区でも開催）。昨年に実施したアンケート結果から、「後継者がいない」、「やめたい」、「面積を減らしたい」等の意向が数値として明らかとなり、その現状説明と、今後の方向性について検討した。参加者からは、園地の流動化、地区の後継者、新規参入の可能性、退職後に取り組める体制づくり等、積極的な発言があった。

今後、振興センターでは、各園地調査を実施して、園地の流動化の可能性、作業受託組織設立の検討を行う。

芸西小学校花き出前授業と卒業記念にコサージュ作成



お店に村の花はあるかな

3月18日、芸西小学校で6年生35名に花き出前授業を行った。

振興センターは、授業のテキストを作成し、また、引き続き行われたコサージュ作りをブルースター女性部員とともに指導した。子ども達は村の花を勉強し、早速、「花作りになる」「花屋さんになりたい」との声があがり、自作のコサージュを胸に付けうれしそうだった。

今後、振興センターでは、機会あるごとに花き生産者リーダーの育成も兼ねて、出前授業の開催を支援する。

農家の経営改善に向けて ～JA土佐あき農家経営改善支援研修会～



熱心に聴講するJA職員ら

JA土佐あきでは、信用や営農、経営等の各部署が連携し農家経営支援に取り組んでおり、3月20日、担当者16名が出席して研修会を実施した。

振興センターは、改善目標や資金繰り等に活用する簡易な経営分析手法を紹介した。JAは経営支援マニュアルの再確認や、簿記等の経営指導、経営支援の充実を呼びかけた。

今後も振興センターでは、JAと連携して指導技術研修等も行い、栽培・経営両面で農家支援を充実させる。